

雇用統計は底堅い内容も労働需給緩和続く公算



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 11月の米雇用統計は底堅い内容に

米労働省が8日に発表した11月の米雇用統計は、米景気が減速するなかでも米労働市場の底堅さを示す内容となりました。11月の非農業部門雇用者数は前月比19.9万人増と市場予想（同18.5万人増）を上回りました。11月の平均時給は前年同月比では4.0%増と10月と同じ伸びとなった半面、前月比では0.4%増と10月（同0.2%増）から伸びが加速し、11月の失業率も3.7%と10月（3.9%）から低下しました（右上図）。

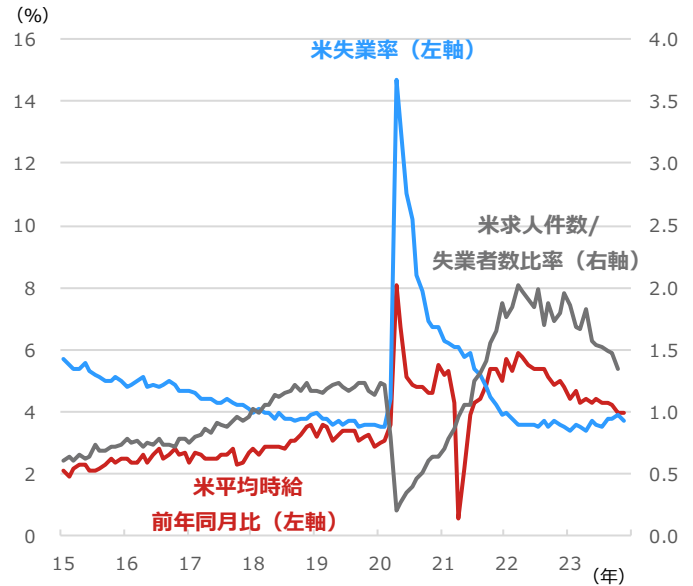
もっとも、米賃金と連動性が高い10月の「米求人件数/失業者数比率」は1.34と、21年8月以来の水準にまで低下し（同図）、非農業部門雇用者数の増加幅も年初から10月までの平均値（同23.5万人増）を下回るなど増加ペースは減速しつつあります。米労働需給は着実に緩和しているとみられ、米賃金上昇圧力は来年に向けて和らいでいくと考えられます。

ポイント② 労働需給の緩和は今後も続く公算

米求人件数に影響を与える傾向がある米商業銀行の貸出態度が、依然として「厳格化」の状態にあることも、米労働需給と賃金上昇圧力の緩和をサポートすると考えられます。過去を振り返ると、米商業銀行の貸出態度の厳格化が続くと、米景気の先行きに対する不透明感などから、米求人件数が大きく減少する傾向が確認できます（右下図）。

11月の米雇用統計が底堅い内容となり、8日の米国市場では米長期金利が上昇（価格は下落）しましたが、米主要3株価指数は揃って年初来高値を更新しました。市場では緩やかな経済成長とインフレ鈍化が併存する「適温経済」への期待が高まっているとみられることから、市場のリスク選好姿勢は当面続く可能性がありそうです。

米平均時給・米失業率・米求人件数/失業者数比率



期間：（米求人件数/失業者数比率）2015年1月～2023年10月、月次（その他）2015年1月～2023年11月、月次
 ・米求人件数/失業者数比率は失業者1人当たり何件の求人があるかを示す
 ・米求人件数はJOLTS（米雇用動態調査）の数値を用いた（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米銀行貸出態度と米求人件数



期間：（米銀行貸出態度）2003年Q1（1-3月期）～2023年Q3（7-9月期）、四半期（米求人件数）2003年1月～2023年10月、月次
 ・米銀行貸出態度は大・中企業向け商用ローン基準を厳格化した銀行の割合（ネット）
 ・米求人件数はJOLTS（米雇用動態調査）の数値を用いた（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一の見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。